【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成16年10月21日(2004.10.21)

【公開番号】特開2000-81753(P2000-81753A)
【公開日】平成12年3月21日(2000.3.21)
【出願番号】特願平10-267400
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０３Ｇ　15/02
【ＦＩ】
　Ｇ０３Ｇ　15/02　　１０１

【手続補正書】
【提出日】平成15年10月21日(2003.10.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】
接触帯電部材に対する粉末塗布
接触帯電装置について、帯電ムラを防止し安定した均一帯電を行なうために、接触帯電部材に被帯電体面との接触面に粉末を塗布する構成が特公平７－９９４４２号公報に開示されているが、接触帯電部材が被帯電体に従動回転であり、スコロトロン等のコロナ帯電器と比べるとオゾン生成物の発生は格段に少なくなっているものの、帯電原理は前述のローラ帯電の場合と同様に依然として放電帯電機構を主としている。特に、より安定した帯電均一性を得るためにはＤＣ電圧にＡＣ電圧を重畳した電圧を印加するために、放電によるオゾン生成物の発生はより多くなってしまう。よって、長期に装置を使用した場合や、クリーナレスの画像形成装置を長期に使用した場合において、オゾン生成物による画像流れ等の弊害が現れやすい。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
帯電ローラが被帯電体に従動で、放電帯電を主とする従来のローラ帯電構成では、またファーブラシの場合において放電を行う位に電圧を印加する構成では、長期に装置を使用した場合や、クリーナレスの画像形成装置を長期に使用した場合に、オゾン生成物が蓄積することにより画像流れが生じやすくなる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２８】
またクリーナレスの画像形成装置においては、転写残トナーが帯電部材と像担持体との帯電ニップ部（帯電部）において帯電不良を引き起こしてしまう。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００８１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８１】
７はレーザーダイオード・ポリゴンミラー等を含むレーザービームスキャナ（露光器）である。このレーザービームスキャナは目的の画像情報の時系列電気デジタル画素信号に対応して強度変調されたレーザー光Ｌを出力し、該レーザー光で上記回転感光ドラム１の一様帯電面を走査露光する。７ａはレーザービームスキャナ７の出力レーザー光Ｌを感光ドラム１の露光部へ偏向するミラー部材である。この走査露光により回転感光ドラム１の面に目的の画像情報に対応した静電潜像が形成される。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１５０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１５０】
３）静電潜像形成のための画像露光手段としては、実施形態例の様にデジタル的な潜像を形成するレーザー走査露光手段に限定されるものではなく、通常のアナログ的な画像露光やＬＥＤなどの他の発光素子でも構わないし、蛍光燈等の発光素子と液晶シャッター等の組み合わせによるものなど、画像情報に対応した静電潜像を形成できるものであるなら構わない。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】符号の説明
【補正方法】変更
【補正の内容】
【符号の説明】
１　　感光ドラム（像担持体、被帯電体）
２　　帯電ローラ（接触帯電部材）
２２　　帯電促進粒子
３　　現像装置
４　　転写ローラ
５　　定着装置
７　　レーザービームスキャナ（露光装置）
８　　帯電促進粒子供給手段
Ｓ１～Ｓ３　　バイアス印加電源